

# 「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 家庭教育支援活動の取組事例

## 「親子で学ぶ家庭教育支援基盤形成事業」(岩手県 久慈市)

### 取組の概要や経緯

子どもの成長段階に合わせた学習機会を、子どもと保護者、指導者等を対象に提供し、親と子が共に学び情報共有する機会を設けることで、家庭教育力の向上を図ることを目的とする。子どもたちが、生活の場・安らぎの場としての家庭を実感できるよう、家庭教育を支援しながら心のケアを図る。

子育て支援センターでは、幼児を持つ子育て経験の浅い保護者に、親子のふれあいの機会を提供。

小中学校では、家庭教育に関心の少ない親なども含め、より多くの親に働きかけ、子どもの心と体の発達や、深刻化する青少年の問題行動について理解を深め、その対処方法や子育てについて考える機会を提供。

### 内容

親子のふれあい、コミュニケーション、いのちと性のはなし、薬物乱用防止、情報モラル、食育など、開催を希望する小中学校、子育て支援センターから計画を出してもらい、講師を県内外から招待し開催している。

### ポイント

開催日時については、土曜日、参観日、就学時検診など、より多くの保護者が参加しやすい日に設定している。

保護者が興味を持ちやすい内容、子どものためになる内容を考えて計画している。

### 成果

保護者へのアンケートでは、次のような感想があり、参加者の満足度が高い事業となっている。

◆子育て支援センター(親子あそび)「子どもとのふれあい方(遊び方)にバリエーションが増えた。年齢別に取り組む内容が違って、子どもの一所懸命に挑戦する姿を見ることが出来た。」

◆小学校(食育)「母子家庭を理由に、手の込んだもの、愛情をきちんとあげられていない面もあるから、今後、そういうのを理由にしないで、もっと一緒にいる時間と、食べる時間を作ってあげなければいけないかなと思います。」

◆中学校(いのちと性のはなし)「今愛されて育てていること、そしてその愛がいつか大切な人と出会って育んでほしい。親心が伝わった(伝わってほしい内容だった)」



トランポリン教室

講座を聞く親子



絵本の読み聞かせをする講師



### 今後の方向性

子育て支援センター、小学校での開催は保護者が多数参加しているが、中学校での開催では保護者の参加が少ないため、土曜日などの開催を増やし、より多くの保護者に参加していただけるよう工夫をこらしていく。